



稲刈りを行うスタッフと一緒に。



北広島町最北部。今年最後の稲刈りを待つ田んぼ。



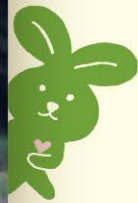
法人のライスセンターで作業する組合長であり父親の和夫さん。



稲刈りの時期は、休む間もなく毎日のようにコンバインに。



攻めの農業で地域の未来を担う。



もくじ

こいびと——表紙の生産者をご紹介
北広島町土橋
小川 誠さん 2

特集
消費税の「軽減税率制度」とは? 4

● JA広島市通信 6

● 変わるんJA [第19回] 9

あなたの暮らしに支店だより
三田支店 10

教えて! 営農さん
祇園坊柿のおいしい
食べ方について 11

はじめての家庭菜園
ブルーベリー 11

JAヘルシークリニック
インフルエンザに
注意しましょう 12

松田麗子の
台所からこんにちは
サツマイモごはん 12

● わが家のスター 13

● おしゃべり広場 13

● クロスワードパズル 14

● JA広島市 情報BOX 15

● ひろしまる倶楽部 & こいぶみ
農家今昔物語 16

本誌タイトル「こいぶみ」とは、JA広島市の気持ちをまっすぐに、組合員をはじめ多くの人に届けるため、広報誌を手紙に見立てたところから命名いたしました。「こいぶみ」の「こい」には、人や地域を愛する「恋」のほか、多くの人に呼んでもらえる「来い」、情報が「濃い」など、さまざまな意味を込め表現しています。



My Hobby

マイ・ホビー

ドライブ。埼玉県の種苗会社まで行くことも。車窓の田んぼや畑には自然と目が行ってしまふ。

My History

マイ・ヒストリー

2000年 農業大学校を卒業し
農業の道へ

3月の播種準備に始まり、畦塗り、荒起こし、代掻き、田植え、草刈り、追肥、防除と、受託した田んぼを半年以上かけて管理している。「作業スタッフも少なく、草刈りだけでも1カ月近くかかります。請け負う面積が広いので大変ですが、僕たちが田んぼを管理しなければ、地域の農地は維持できません」今でも、法人には農作業委託の依頼が後を絶たない。

芸北地域で水稲の可能性を広げる取り組み

そんな小川さんのもとに、今年頼もしい戦力がやってきた。防除を行うドローンだ。最大で10kgの薬剤を散布できるので、作業時間が格段に短くなった。

さらに、芸北地域の米のブランド化を進める「良質米クラブ(仮称)」が発足する予定だ。芸北の「あきたこまち」をPRするよいきっかけになるかと期待を寄せている。

「儲かる農業『楽しい農業』を芸北地域で実現させたい。これからは、息子達の世代に、農業を盛り上げてほしい」と小川組合長は期待している。

今年導入したドローン。講習を受講し、技能認定証を取得した。



未来を見据え新しいことに挑戦する

もう一つ、法人のこれからを変えるかもしれない試みが始まっている。「ゲールやカーボネロ、ビーツ、ロマネスコなど、まだ一般には馴染みのないヨーロッパ野菜の栽培を始めています。新たな品目に挑戦するなかで、地域から託された農地を守っていきたくすね。自分たちの努力次第で未来は変えられる。小川さんは「攻めの農業」で、地域のこれから見つめている。

地域の田んぼを守る農事組合法人うづつき

今から約24年前、広島県内で3番目の農事組合法人として、高齢化が進む北広島町土橋の農地を守り、農業を盛り上げたいと設立された農事組合法人うづつき。小川和夫組合長のもと、組合員15名で水

稲38haを中心に、5年前からはキャベツや大玉・中玉のトマト、パプリカなども栽培している。

「稲刈りの時期は、ほとんど休みが取れないくらい忙しいんです」と語る小川さん。農事組合法人「うづつき」で、仲間とともに水稲を担当。田植えから収穫、調整までの一貫作業を行っている。現在の仕事や変わりつつある部分、今後のビジョンについて伺った。

こいびと——表紙の生産者をご紹介 小川 誠さん (40歳) 農事組合法人「うづつき」 北広島町土橋